



学習スタイル

学習スタイルの評価

レポート : Sample Report

日付 : 2024/08/28

YOUR COMPANY

LOGO

APPEARS HERE

目次

はじめに	3
あなたの学習スタイル	5
学習スタイルの活用	6
あなたのスコア	7
参画	8
変換	9
関連付け	10
理解	11
まとめ	12
効果的な学習サイクル	13
まとめ	17
変化への誓約書	18
それでは何をする？	19

はじめに

「どのように学習するか」は、様々な視点から多くの本や記事が書かれ、研究が行われてきたトピックです。そのうちの一つであり、この主題の根幹となるのが学習スタイルです。

「学習スタイル」の定義は人によって様々です。認知力や記憶力の一部と考える人もいれば、認識力や理解力の一部と考える人もいます。情報収集のための人間独特の理解・プロセスの「流れ」と考える人もいます。

学習者は一様ではありません。外見や体格が違うだけでなく、文化的背景も違います。さらには、体験してきたことや現在の学習メソッドも全く違います。経歴や文化的な違いだけでなく、好みも違います。例えば文章での情報処理を好む人もいれば、画像などの視覚的サポートを必要とする人もいます。個人で取り組むことが好きな人もいれば、グループで取り組むことを好む人もいます。直感的に素早く情報を読み取る人、連続的なプロセスを重視し、情報の処理に時間がかかる人など様々です。結局のところ、唯一確実に言えることは、学習者はそれぞれ独自の方法で学習する、ということです。

「学習スタイルに関するアンケート」は、学習者一人一人が自分の学習スタイルの相対的な優先傾向を理解し、今後の学習に役立てるためのものです。

このアンケートは、学習の好みや生来の学習の傾向を知るためのものです。新しい情報の認識や学習についてより深く理解することができれば、今後の学習もさらに効率的で良いものになるでしょう。次のページでは、脳全体を活用して学習する方法を図解して説明します。

注意：

- これはアセスメントであり、テストではありません。
- 正解や誤りはありません。

学習方法

静かに反芻
順序立てて事実を提示
情報の全体像把握
論理的で計画性のある議論

興味のあること

実績
効率
機能
価値

タイプ

専門的
知的
数学的
問題解決型
計算が得意
まとめ役

タイプ

洞察力がある
リスクを厭わない
衝動的
統合役
独創的
芸術家肌

学習方法

自分で発見
概念の構築
見えない可能性の発見
参画
実験的に学習

興味のあること

探求
戦略
概念
遊び

大脳新皮質

分析的（論理的＆合理的）

大脳新皮質

直感的（オープン）

大脳辺縁系

詳細思考（体系と連続性を重視）

大脳辺縁系

運動感覚的（感情的＆表現力）

興味のあること

品質
安全
信頼性
水準

学習方法

理論の実践
情報の連続的な提示
プログラムされ、体系立った学習経験

タイプ

詳細思考
保守的
伝統重視
控え目
プランナー
評価者

タイプ

情に脆い
愛想がよい
音楽の才能を持つ
人の役に立ちたい
感情的
スピリチュアル

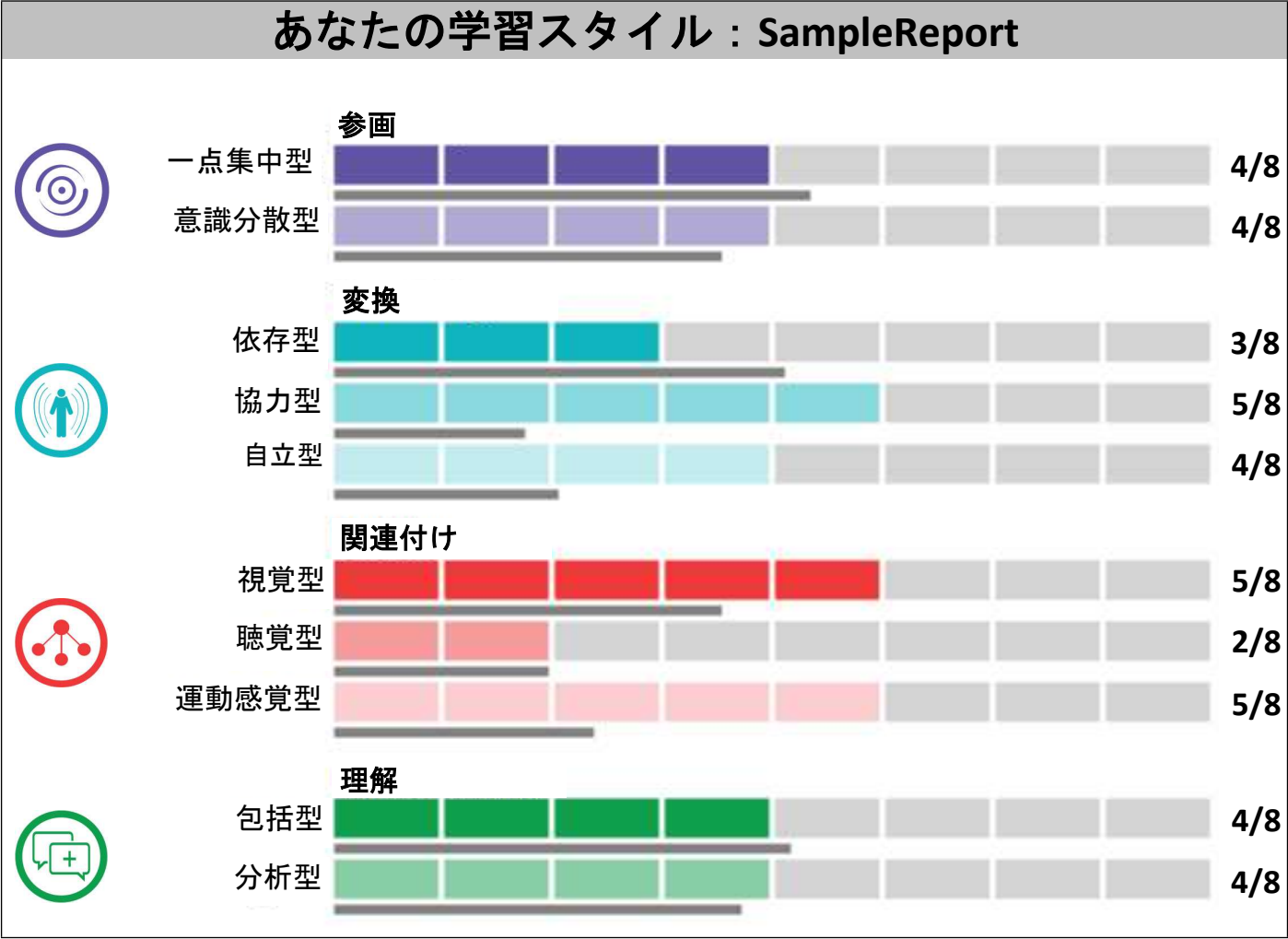
興味のあること

愛
人
コミュニケーション
無私無欲

学習方法

アイデアを聞いて、共有する
人と深く関わり、共に取り組む
オープンなディスカッション
経験から学ぶ

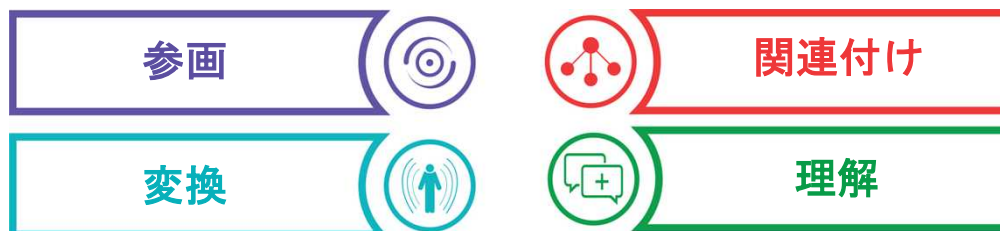
あなたの学習スタイル



ノート: あなたのスコアの下に表示されたグレーのバーは、過去にこのアセスメントを受けた学習者の平均値を示しています。

学習スタイルの活用

このアセスメントは、学習者一人一人の学習スタイルを測定するためのものです。4つのカテゴリで測定を行います。



学習者は、4つのカテゴリ全てのスコアと、サブスケールのスコアを知ることができます。それでは、4つのカテゴリの詳細を説明しましょう。

1. 参画

参画カテゴリはまず、学習者の学習への意欲に着目します。そして新しい情報が提示されたときに発揮されるコミット・集中力のレベルを測定します。このカテゴリには、の2つのサブスケールがあります。「一点集中型」と「意識分散型」です。「一点集中型」は、効果的に集中することができ、共有される情報のコンテキストを心配し過ぎることなく情報に注意を向けることができる学習者です。「意識分散型」は、音、光、その他の物理的な環境要因に影響を受けやすく、情報共有が妨害されてしまうことがあります。

2. 変換

変換カテゴリは、学習の進行や見たもの、聞いたもの、感じたものを理解するときに、誰に頼ることが多いかに着目します。このカテゴリには3つのサブスケールがあります：「依存型」「協力型」「自立型」です。「依存型」は情報を処理する際に、主に講師に依存します。「協力型」の学習は、主にグループディスカッションやチーム活動に依存します。「自立型」は自分で学習プロセスを進めます。

3. 関連付け

関連付けカテゴリは、データや情報の認知や、それらがどのように既存の知識に関連付けられるかに着目します。このカテゴリには3つのサブスケールがあります：「視覚型」「聴覚型」「運動感覚型」です。「視覚型」は、目で見ることのできる情報を好む学習者です。「聴覚型」は、聞くことのできる情報を好む学習者です。「運動感覚型」は、実際に体験できる情報（主に触る、匂いをかぐ、味わうなど）を好む学習者です。

4. 理解

理解カテゴリは、受け取ったデータや情報の統合についての好みに着目します。このカテゴリには、の2つのサブスケールがあります。「包括型」と「分析型」です。「包括型」は概念的、または大局的に理解することを好みます。「分析型」は詳細に、または段階ごとのレベルで理解することを好みます。

あなたのスコア

あなた個人のスコアを確認したら、次のことに取り組みましょう：

1. 学習スタイルのバランスをレビューする
2. あなたの学習スタイルと平均スコア（グラフの下のパール）を比較する
3. 今後の学習について考える。今後の学習があなたにもたらす影響を考慮し、あなたのアプローチを調整する方法を検討する。

繰り返しますが、学習スタイルには正解や誤りはありません。アセスメントの価値は、あなたの個人的な活動方法にどの程度有益な指標を示してくれるか、ということです。理想は、アセスメント結果が調整や変化が必要かどうかの判断や、効率の改善に役立つことです。

このアセスメントを完了すると、自分自身のスコアからこれらのレビューを行う準備が整います。どのような結果であっても、自分のスコアを分析したいと思うはずです。次のページでは、各カテゴリについての幅広い情報を掲載しています。

自分のスコアを理解する

次のページでは、4つの学習スタイルカテゴリと、10のサブスケールにおいて、高いスコアの学習者と低いスコアの学習者の一般的な情報を掲載しています。これは学習者がどのように新しい情報を学習し吸収するか、についての指針でもあります。

あなたのスコアは、次の4つのカテゴリごとに採点されています：



1. 参画 - 新しい情報や学習にどのように集中するか：「一点集中型」「意識分散型」



2. 変換 - 学習環境で見たこと、聞いたこと、感じたことをどのように処理するか：「依存型」「協力型」「自立型」



3. 関連付け - 新しい知識と既存の知識をどのように結びつけるか：「視覚型」「聴覚型」「運動感覚型」



14. 理解 - 手に入れた学習をどのように統合するか：「包括型」「分析型」



一点集中型 : 4/8

意識分散型 : 4/8

参画は、新しい情報や学習にどのように集中するか、についての特徴です。「一点集中型」の学習者は、隣接する情報や阻害要因に気付いたり、気を取られるたりすることなく、核となるメッセージに集中することができます。集中する反面、関連する兆候を見逃すこともあります。「意識分散型」の学習者は、学習環境全体に気を配る傾向がありますが、核となるメッセージ以外の問題に気を取られることもあります。

一点集中型
(学習者の 55%)

意識分散型
(学習者の 45%)

傾向 - 核となるメッセージ以外の阻害要因を難なく無視できる - 可能なときは、学習の状況を調整しようとする - 講師の存在を目や耳で明確に感じられる限り、どのような学習形式や研修室の設計でも、楽しんで取り組むことができる	傾向 - 気をそらせ、苛立ちの原因となる音や阻害要因を見つけてしまう傾向がある - 学習を最適化できるよう、全体的な学習状況を講師に調整してほしい - 明るい、風通しの良い、「目的に合致した」研修室、などの居心地の良い適切な学習形式とレイアウトを好む
モチベーション - 自分で学習目標・目的を設定し、他者に話す - 自らモチベーションを作り出し、ペースを整え、素早く準備できる一方で、挑戦しなかったときにモチベーションが消えるのも早い	モチベーション - 学習の初期段階で全体的な学習目的や目標を説明してほしいと考える - 学習内容だけでなく、全体的に適切な学習環境にしようという組織的な取り組みによりモチベーションが上がる
集中力 - 学習と、学習者個人の願望や目的と明確なつながりがあれば集中力は高いが、学習の核となるメッセージから逸れる時間が長くなるほど低くなる可能性がある - 学習目標や目的、そこに到達するまでの明確な道のりを示してほしい	集中力 - 単に形式的に参加者に対応しようとするのではなく、トレーニング全体や学習スタイルの問題に細かく配慮が行き届いている場合は、集中力が高い - 可能な限り最適な学習環境で、様々な方法で学習することを好む



変換

依存型 : 3/8

協力型 : 5/8

自立型 : 4/8

変換は、学習環境で見たこと、聞いたこと、感じたことを、自身の中にあるメンタルモデルの観点から、理解できるように変換するメソッドの傾向です。依存型学習者はこのプロセスで講師の支援を必要とします。協力型学習者は、グループで取り上げられた問題について議論することでこのプロセスを行います。自立型学習者は自分自身で先入観を見直し、それを与えられた情報に反映させます。

依存型学習者 (学習者の 52%)

特徴

依存型学習者は講師が情報、計画性、明確な焦点を指揮することを好む。そのため、講義やチュートリアルを好む傾向がある。またフォーマルな学習形式を好むため、大人数のグループでの学習を望む傾向がある。

好きなもの

- チュートリアル
- 講義
- プレゼンテーション
- 発表
- マニュアル
- 工程表
- インストラクション
- ガイドライン
- 概要
- 要約

嫌いなもの

- 概念的モデル
- 図解
- 複雑なチャート
- 注釈のないデータ
- 裏付けのないアイデア／意見

協力型学習者 (学習者の 22%)

特徴

協力型学習者は、ディスカッションのあるセッション、少人数のセミナー、課題と社会的な関わりのあるプロジェクト的な取り組みを好む傾向がある。そのため、ゲーム、シミュレーション、ケーススタディ、ロールプレイングなどを好む。

好きなもの

- セミナー
- ワークショップ
- グループディスカッション
- ロールプレイング
- シンクタンク
- ブレインストーミング
- セッション
- プロジェクト
- ゲーム
- シミュレーション
- クラブ

嫌いなもの

- 一人での作業
- 人と関わりのない環境
- 長時間の講義
- 個人での読書
- 遠隔学習、通信教育

自立型学習者 (学習者の 26%)

特徴

自立型学習者は、学習内容やプログラム構造に自分の考えを反映させることを好み、講師はガイド用のリソースだと見なしている。そのため、ガイドのある読書や遠隔学習を好む。

好きなもの

- 読書
- 文書作成
- 遠隔学習、通信教育
- シミュレーション
- 一対一のカウンセリング
- モデル
- 個人主義
- 課題
- 緩いアイデア
- 大局的な概念

嫌いなもの

- 専門的なプレゼンテーション
- 細かい講義
- 方針と工程
- 固定された工程とインストラクション
- テキスト／マニュアル



関連付け

視覚型 : 5/8

聴覚型 : 2/8

運動感覚型 : 5/8

関連付けは、学習者が新しく学んだ知識を、どのように既に学習した共有知識（短期記憶と長期記憶）に結び付けるかの特徴に焦点をあてます。主に「視覚型」「聴覚型」「運動感覚型」の3つに分類されます。学習者はこの3種類の方法を全て使用しますが、好みによって他の2つよりもよく活用する方法があります。

視覚型学習者 (学習者の 45%)

運動感覚型学習者 (学習者の 25%)

聴覚型学習者 (学習者の 30%)

特徴

- リラックスするときは、映画やビデオを見る、映画館に行く、読書をするを好む
- 人と対面で話すことを好む
- 頭の回転が速く、早口
- 名前を忘れても、人の顔は覚えている
- 道や方向に迷ったときは地図が欲しい
- 活動していないときは、落書きしたり、何か／誰かを観察したりする
- メモ、手紙、カードで人に感謝を伝える

最適な学習方法

- 鍵となる要素の書き出し
- 学習内容の可視化
- 学習内容から図表や絵を描く
- 日付の確認にスケジュール表を活用
- 自分自身の目で見える関連性の資料を作成
- 絵、図表、チャート、動画、グラフィックなど

特徴

- リラックスするときは、ゲームやスポーツを好む
- 何かしながらも人と話したい
- ジェスチャーや表情を使いながら、ゆっくり話す
- 人と会ったときは握手する
- 道や方向に迷ったときは、方向や道を指し示してほしい
- 人に感謝するときは、背中をポンと叩く
- 長時間椅子に座ってられない

最適な学習方法

- 実演を見て、まねをする
- モデルの作成
- 聞いた情報をマインドマップなどに記録する
- 歩き周りながら、何かを読む
- 新しい情報やキーポイントに下線を引いたり、ハイライトしたりする
- キーポイントをカードに書き、順番に並べる
- 体を動かして、活動して学習に参加する

特徴

- リラックスするときは、音楽やラジオを聴くことを好む
- 人と電話で話すことを好む
- 他の人の話を聞くのは好きだが、自分も話したい。リズムカルに話す
- 人の顔は忘れても、名前は憶えている
- 道や方向に迷ったときは、口で説明してほしい
- 活動していないときは、独り言を言ったり、人に話しかけたりしがち
- 人に感謝するときは、言葉で伝える

最適な学習方法

- セミナー、プレゼンテーション、説明を聞く
- 自分自身に読み聞かせる
- 感情を込めて、アクセントをつけて読む
- 車の中や家事の合間に聞けるよう、キーポイントを録音したテープを作る
- 自分の言葉で要約する
- 他の人にテーマを説明する
- 学習している内容を自分の言葉で表現する



包括型 : 4/8

分析型 : 4/8

理解

理解は、学習者がどのように学習した内容を統合し、それを理論的に、または実際に活用するために引き出していくか、に焦点をあてます。多くの人が使う統合の方法には「包括型」と「分析型」の2つのスタイルがあります。前者は、大局的視点や概念的視点から幅広い情報を吸収する方法で、後者は学習した内容を論理的に、またはステップごとにブレイクダウンすることで理解する方法です。

包括型 (学習者の 53%)

強み

- 全体像を把握できる
- 関係性を把握できる
- グループでの取り組みで協力できる
- 行間を読むことができる
- 多くの選択肢を考えることができる
- 段落分けが得意
- 一度に複数のことを行うことができる
- ボディーランゲージを読み取ることができる、他の人を巻き込む

スタイル

- 他の人の感情に敏感
- 柔軟性がある
- 流れを重視する
- ディスカッションや他の人との取り組みで学ぶ
- 再確認と補強を必要とする
- 将来に視点を置き、思考を拡大させる
- 対立を避けようとする
- ステップや詳細を省略することがある

フラストレーション

- 自分自身に分析的に説明すること
- 自分自身に説明する機会を得られないこと
- 何かをする意味がわからないこと
- 終了点を知らずに、物事をステップごとに行うこと
- 学習内容と現在の状況を関連付けられないこと
- 答えがわかっているのに、そのためのステップを示すこと

分析型 (学習者の 47%)

強み

- 詳細を把握できる
- 集中力
- 組み立て
- 具体例を把握できる
- 直接的な答えを導き出せる
- 一貫性がある
- 客観性がある
- 個人としての競争力がある
- 一つのことに集中することができる

スタイル

- ステップごとに、物事の順序を重視する
- 詳細に注意を払う
- 準備万端にする
- 期待されていることを知りたい
- 感情よりも事実を重視する
- 一つのことを一度で完了させたい
- 私情や感情を持ち込むことはめったにない
- 論理的
- 事実を発見するが、メインのアイデアを見失うことがある

フラストレーション

- 意見を事実として話されること
- 何かを行う目的が理解できないこと
- 含まれるステップを理解せずに、全体概要を話されること
- 「はい」または「いいえ」の答えしか必要のない説明を聞くこと
- 一般論への対応
- 学習すること全ての意義を見つけること
- 一つのタスクを完了する前に、次のタスクを開始すること

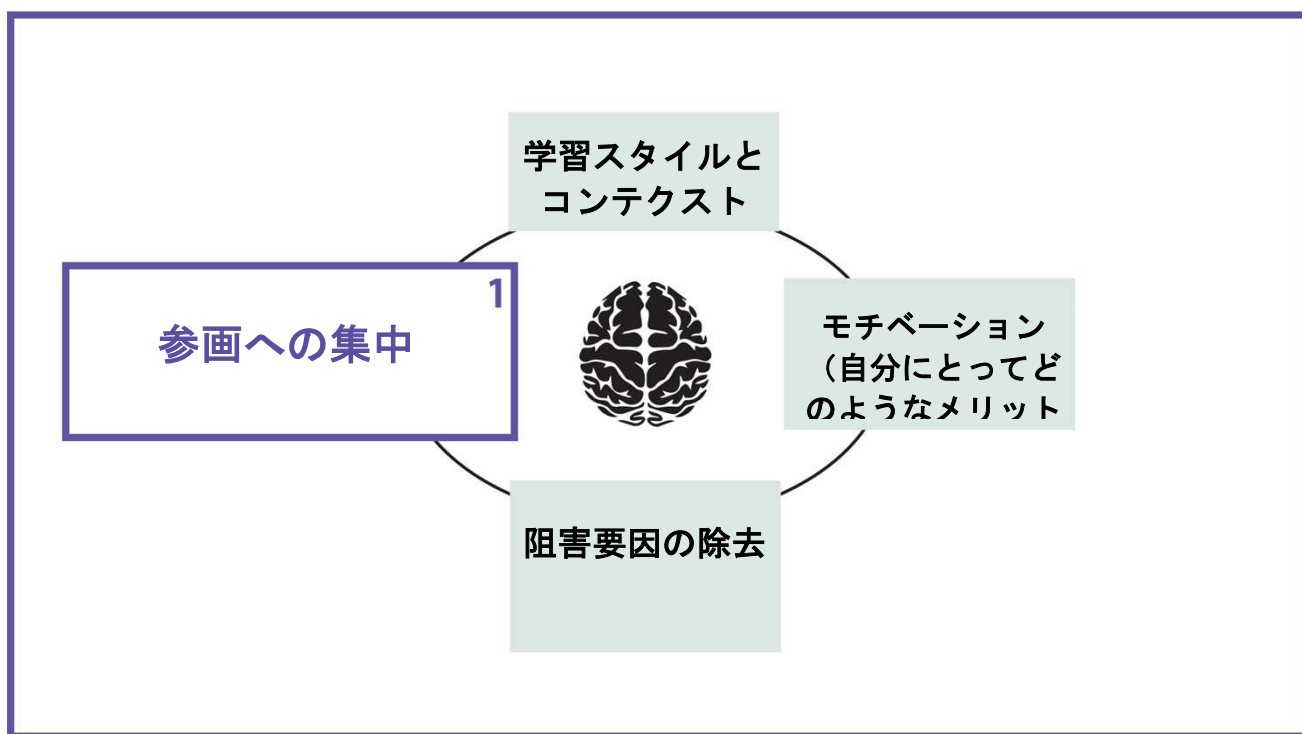


効果的な学習サイクル—4つのステップ

見たこと、聞いたこと、体験したことの評価は、実際には非常に複雑なプロセスです。学習者はそれぞれ違った経歴、好み、価値観、スキルなどの要素を新しい状況で適用しようとするからです。その上で、精神的な4ステップの学習評価サイクルを提案します。

Step 1: 参画

学習の準備段階で必要となるのが、学習の妨げとなる阻害要因を取り除き、全力で学習テーマに取り組む能力です。これは主に右脳が担う活動であり、情報を評価するために幅広いコンテキストを読み解きます。

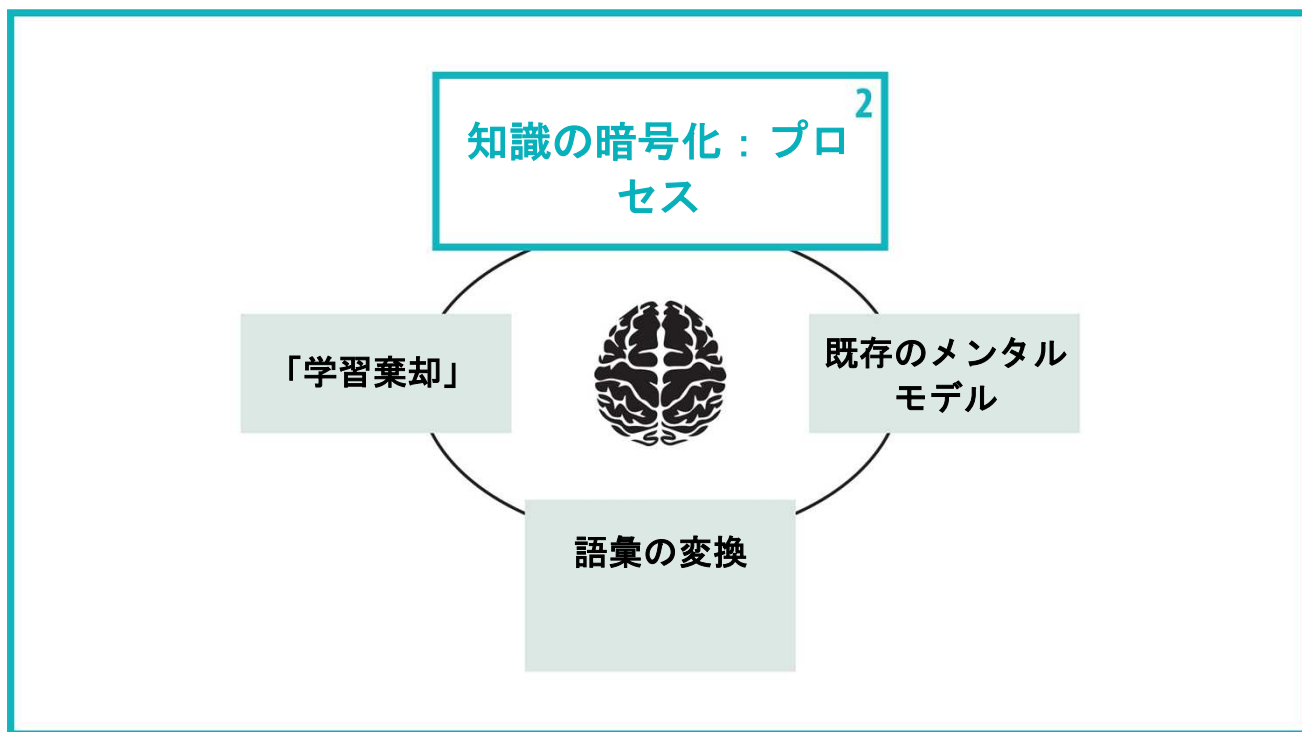




効果的な学習サイクルー4つのステップ

Step 2:変換

私たちは物事がうまく機能するように既存の知識やメンタルモデルと合致する方法で、情報を変換しなければなりません。場合によっては、新しい学びを意味のあるものに変換できるまで、既存の知識を意識的に棄却する必要があります。これは主に左脳の活動であり、ロジックや理由付けに関連しています（変換）。

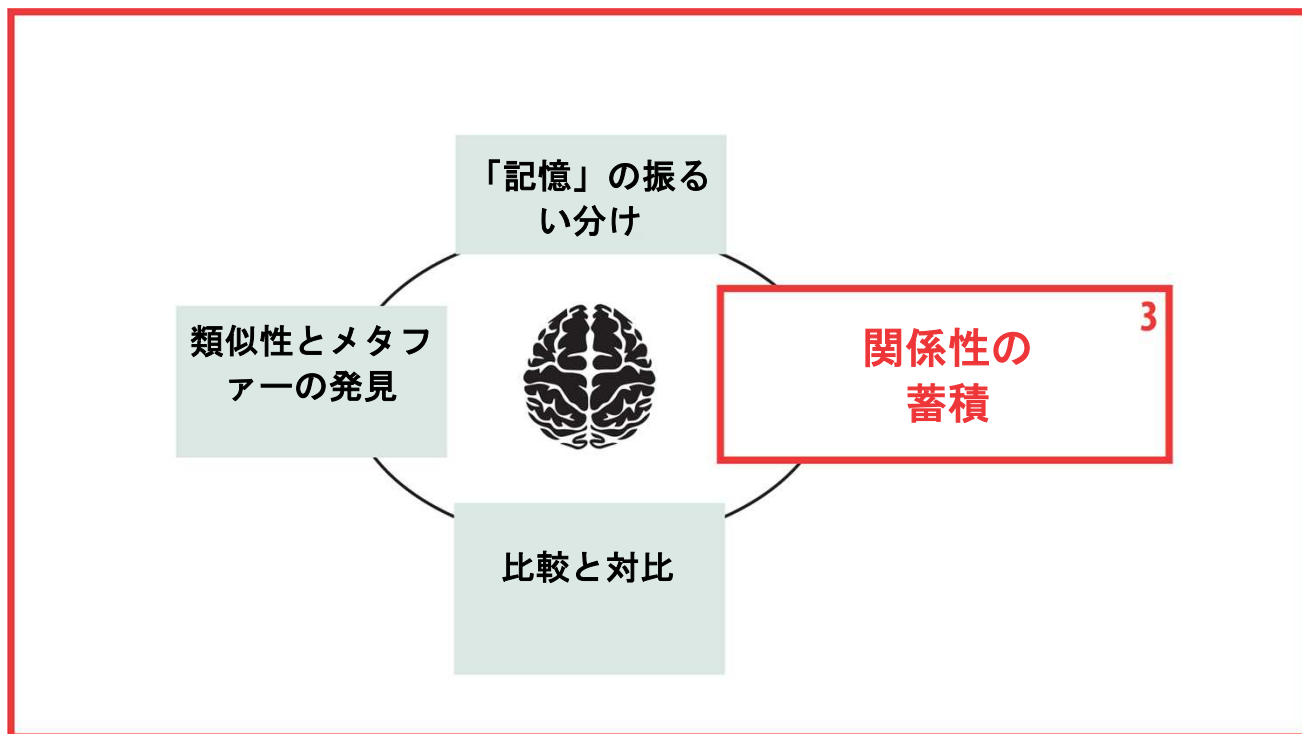




効果的な学習サイクルー4つのステップ

Step 3: 関連付け

新しい情報と既存の情報を結び付けるため、短期記憶と長期記憶の両方で、既存の知識のパターンやブロックに新しい情報を関連付ける必要があります。これは主に右脳の活動であり、一般論や関係性とながりのあるものです。（関連付け）

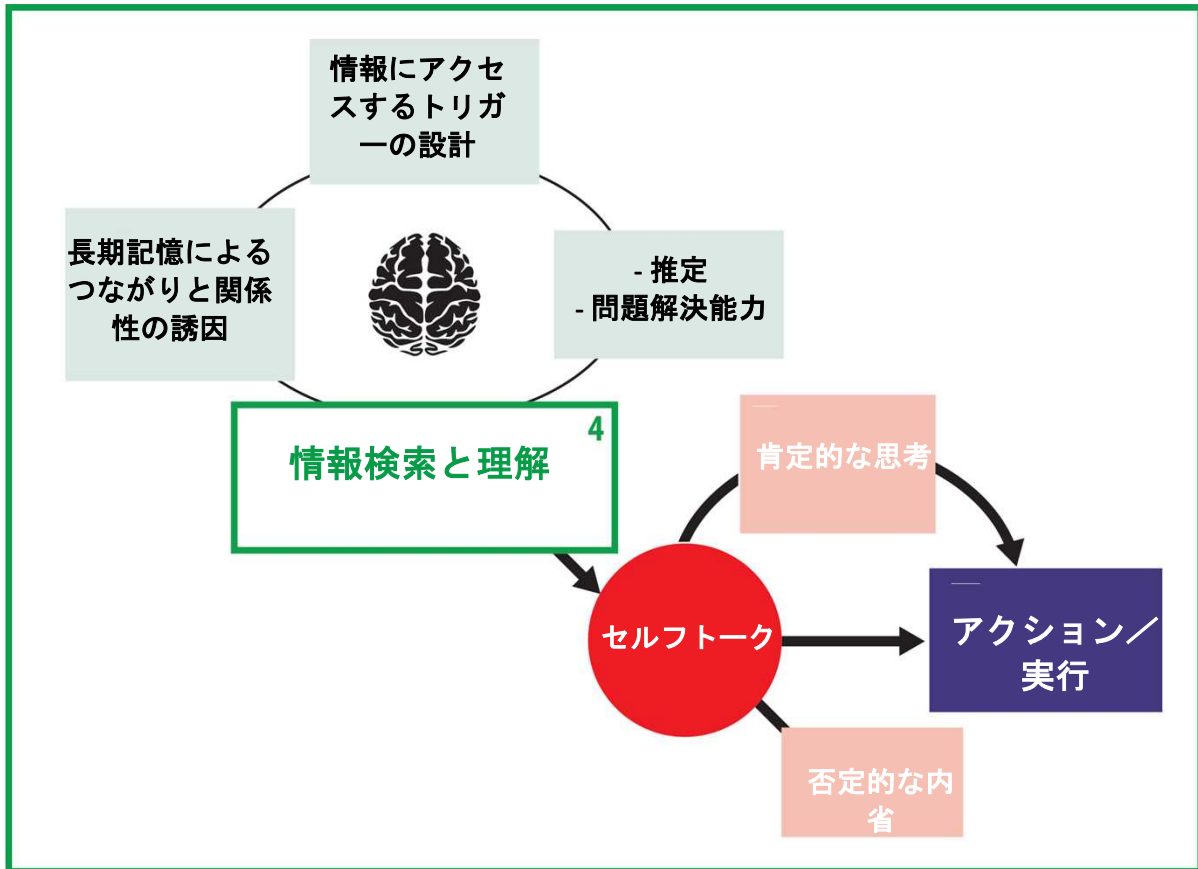




効果的な学習サイクルー4つのステップ

Step 4:理解

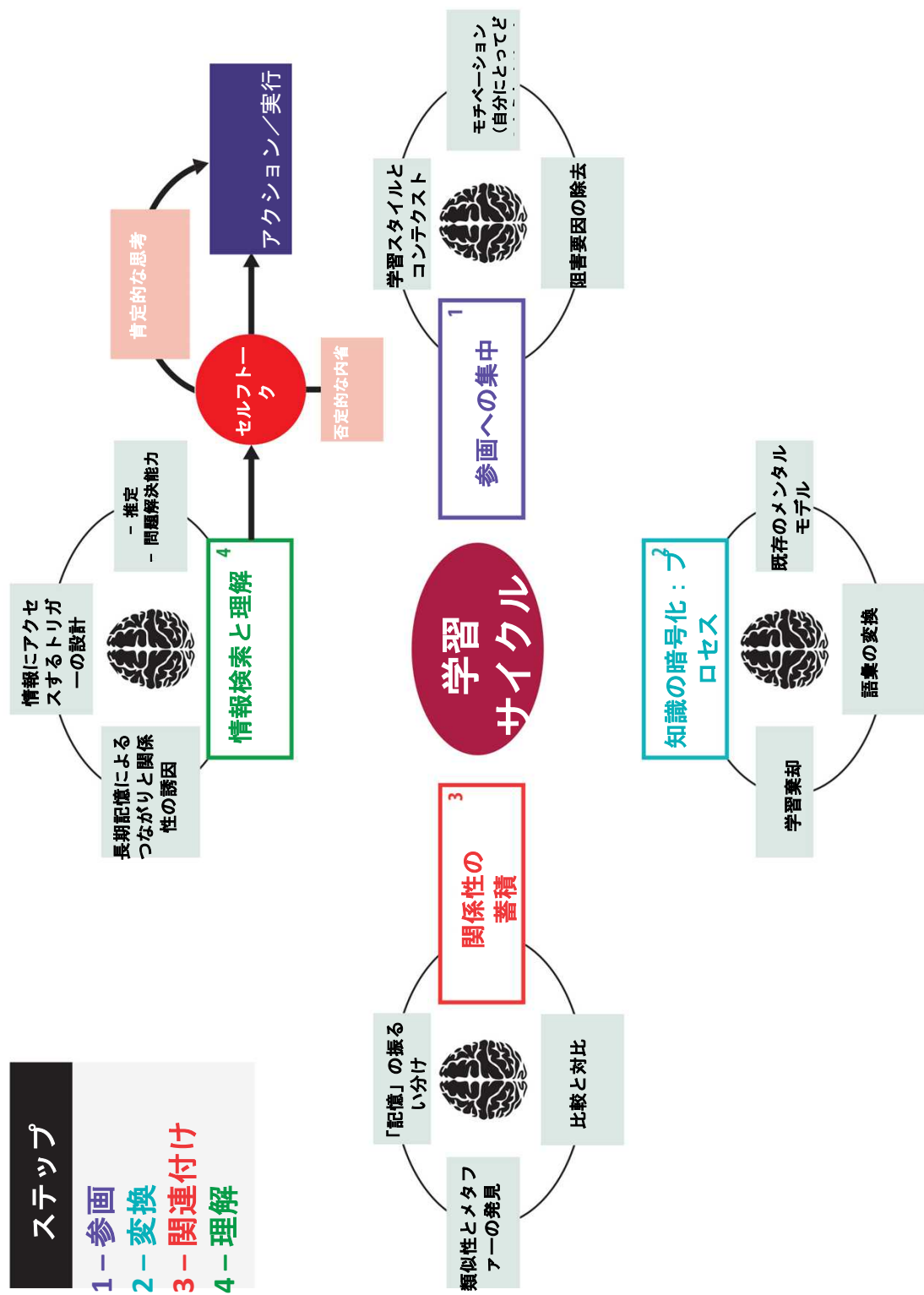
新しい情報を既存の知識に結び付けてまとめ、必要なときに呼び出せるように、その情報を再度定義しなければなりません。これは主に左脳の活動であり、帰納と演繹のプロセス（理解）に関係します。



この学習評価サイクルは多くの場合、数秒で完了しますが、情報が複雑で混乱している場合は、長い時間がかかることもあります。このサイクルを上手く回すことができると、「セルフトーク」すなわち自己観察は肯定的なものとなり、知識の一部となったり、アクションへとつながります。反対に、ステップのどこかで失速したり、サイクルを回すことが困難なときは、「セルフトーク」は否定的なものとなったり、混乱していることが分かります。再度このサイクルを辿り、問題に取り組むことができるか検討します。

このアセスメントでは、学習者が学習サイクルでこの4つのステップを回す方法について、有益なガイドラインを提供しています。

効果的な学習サイクルーまとめ



まとめ - 効果的な学習を行うために

私たちのプロファイリングのポイントはシンプルです。学習者が全体的な学習サイクルと自分の強み、弱み、先入観、好みを知ることができれば、学習や知識の構築をより容易に調整することができる、と考えます。ここでの説明以上の情報を望む学習者もいるかもしれません。学習スタイルをもっと知りたい、という願望はあなたにとって今後の学習をより効果的に行う「レシピ」作成の第一ステップです。

- 何らかのテーマについて、自分が望む範囲と深さで理解することができたら、次のステップは、この思考が自分に適合するか、自分に関連があるか、自分が惹かれないものは何か、について検討することです。つまり、学習スタイルに関するアンケートの4つのステージ、ひいては10のサブスケールを注意深く見てみることです。
- ほとんどの学習スタイルに関する理論や研究は、大人数の学習者に基づいて行われているため、平均的で一般的な結果しか示してくれません。自分のものとして受け入れられる概念さえ、可能な限りあなたに効果を発揮するように修正が必要となります。これらの概念をより正確に個人の学習方法や指導方法に反映させることが、有効性と適用可能性を改善するための、次なるステップです。
- 幸運なことに、学習スタイルについての概念には非常に興味深いものが多いので、自分でも試したり実験したりしてみたいと思うはずです。学習者個人が使用でき、メリットを引き出せる正しいレシピを作成する最後のステップは、推奨されるアプローチやアクティビティを実行してみることです。この意味では、将来のラーニングジャーニーを組み立てる上で最も重要なのは、自分自身を理解することです。

トレーニングや学習のプロセスで良く使用されるメタファーや類似の概念は数多くあります。ある意味では、学習者はこれらの情報で満たされています。コンピュータの容量が一杯になるまで、次第に満たされていくのと同じです。コンピュータの場合は新しいメモリを買うこともできますが、人間が容量以上の情報を得た場合、私たちにできることは新しい学習内容のために、古い情報の容量を開け放すことです。よく「**学習棄却**」プロセスだと言われます。このプロセスは単純に、新しい情報に関連のない情報や、新しい情報と対立する情報を特定し、新しい情報に対応するための明確な戦略を持つ、というものです。これは機械についての学習や、複雑でない学習（例えば全く新しいタスクについての学習）では単純ですが、行動変化を模索するような学習では、複雑になる可能性があります。

社会心理学者であるクルト・レヴィンは、1940～50年代の著書で、最も適切な学習変化のモデルは以下のようなものであると提案しています：



このモデルの中で彼は、道を切り開くこと、つまり古い習慣や考えをできる限り直接的な方法で「解凍する」ことにエネルギー注ぐべきだと提案しています。コツは、必要なくなったものを「削除」したり、新しい情報を既存の知識や体験に結び付けたりすることです。これらは偶然には起こらず、計画しなければ起こすことができません。

効果的な学習を計画するためには、以下の2つの方法があります：

- 講師が学習者個人の学習スタイルを考慮し、学習の効果を最大化できるようスタイルや形式を変える
- 上記の代案として、学習者個人が自分の好む学習スタイルを理解し、必要な調整を行う

上記2つのアプローチを同時進行で行うことが最良の方法です。学習者が新しいことや、まったく別のことを学ぼうとすると、常にこの2つの選択肢をコントロールすることができます。

変化への誓約書

1. 今後より効果的に学習するための目標：

- a) _____
- b) _____
- c) _____

2. 以下にかかる労力や注力を減らすことで、目標を達成するための時間を作り出します：

- a) _____
- b) _____
- c) _____

3. 毎週進捗を記録する方法：

4. 支援してもらう人：

5. 支援してもらう方法：

6. 学習の勢いを維持するため、活用するメソッド：

- a) _____
- b) _____
- c) _____

7. マイルストーンを達成したときのご褒美：

8. 最終的なご褒美：

署名 _____ 日付 _____

それでは何をする？

本レポートには、4つの学習スタイルカテゴリーごとの情報が満載です。あなたは、自分の学習スタイルパターンを理解するための学習プロフィールを手に入れました。

本レポートでは、4つのセクションごとに多くの提案を行い、この価値のある情報を活用する機会を数多く提供しています。あなたと、あなたの成功にとって最も重要な学習スタイルセクションを改善できるよう、次なるステップを実行しましょう。

このレポートを棚やファイルにしまい込んではいけません。他の人と意味のある会話をするために、またあなたが新しいことを学ぶ方法を改善するために、この情報を応用できるはずです。参照する手段としてこのレポートを継続的に利用しましょう。多くの情報が含まれており、たった一回だけ読むために書かれたものではありません。

あなたが新しいことに「参画」し、「変換」「関連付け」「理解」することに小さな変化をもたらすことを楽しんで実行できれば、すぐに結果はついてくるでしょう。きっと嬉しい変化に驚くはずですよ。

他にはどんなアセスメントがある？

弊社では、5つのアセスメントを行っています。人間の行動／認知の異なる5つの側面について受講者を測定・教育するものです。5つのアセスメントは弊社の主力製品であり、5つのコア・アセスメントと呼ばれています。

1. **DISC** - 弊社で最も人気のアセスメントで、世界一の行動プロフィールツールです。DISCは個人の平常スタイル（プライベートや内面）と適応スタイル（職場や外面）の行動スタイルについて詳細な分析を提供します。個人の行動は、仕事への適性、チームメンバーとしての適性、組織のリーダーとしての適性などの強力な指標となります。つまりDISCは、与えられた役職や状況で人が「どのように行動するか？」を予測するものです。また、プライベートや職場でのコミュニケーションで最高の結果を引き出すためのレッスンも提供しています。

2. **モチベーター** - DISCと最も相性の良いアセスメントです。モチベーターは個人を突き動かすモチベーションの普遍的なディメンションを測定します。ディメンションは、バランス感覚、経済観、自主性、影響力、利他的感覚、規律性、学習能力の7つです。DISCは人が「どのように」行動するかを予測しますが、モチベーターは「なぜ」そのように行動するかを解説します。まだDISCしか受けていないのであれば、アセスメントの個人及び組織へのメリットの一部しか享受していないと言えます。

3. **ハートマン価値プロフィール (HVP)** - HVPは学習者にとって非常に重要な情報を提供してくれます。ロバート・S・ハートマンの価値観に関する研究に基づいたユニークなアセスメントで、個人の問題解決能力や、ある状況での見落としがちな盲点を回避する能力を測定します。HVPアセスメントは、個人のクリティカルシンキング、判断力、意思決定力を非常に正確に測定します。

4. **感情的知性 (EIQ)** - EIQアセスメントは、受講者が自分の現在のEIQとそれを適用した結果の相関関係を理解することに役立ちます。意志決定力、リーダーシップ、他者の感情を読む力の改善、そして相互にメリットのある職場作りに役立ちます。EIQはコーチングにより改善することができる、と知ることが重要です。EIQは自己改善のための素晴らしいアセスメントです。

5. **学習スタイル** - 5つ目にして最後のコア・アセスメントは本レポートで説明した学習スタイルです。このアセスメントは学習者個人が、学習や新しい情報獲得の最適な方法を特定するためのものです。文章での情報処理を好む人もいれば、画像などの視覚的サポートを必要とする人もいます。個人で取り組むことが好きな人もいれば、グループで取り組むことを好む人もいます。直感的に素早く情報を読み取る人、連続的なプロセスを重視する人など様々です。要するに、学習スタイルを理解することで、企業のトレーニングの効率を最大化し、最高のパフォーマンスを誇るチームを結成することに繋がります。